

80歳の私に与えた講義の影響

国際医療福祉大学大学院 ジャーナリズム分野 清田 政孝

◆私はこの5月で81歳、国内の男性の平均寿命80.98歳を超えたこととなります。

余命数年を残すだけとなった私に、義は大きな夢を与える絶好のタイミングでした。NPOを運営している私は日頃、理事会、総会、行政との折衝など事務作業が多いにもかかわらず誰も手伝ってくれない、一人不満を言って、年齢を理由に早く理事長を降りたいと願っていました。

◆ところが、今回の「介護のimageを変える。」を拝聴して私の考えの甘えが一変しました。

配布された資料は私のバイブルです。どのページを開いても杉本浩司先生の長年の汗と油の結晶から生まれた金言の一言につきます。どの言葉が重要かと質問を受けても回答に困ります。「すべてす」と答える以外ありません。

◆活動実績にわが目を疑いました。講演回数延べ600回以上、聴講者のべ4万人以上、この他メディア出演等きりがありません。特に講演回数が多いことは講演内容の効果が次々伝わった結果です。

講演のタイトルは「介護のimageを変える」となっていますが、この考え方はほとんどの問題解決に応用できます。私は自分の問題解決に即ち「NPO 法人京都がん医療を考える会」が抱える問題解決に適用するつもりです。

◆「介護のimageを変える」ために何をしたかをまとめると次のようになります。

まず mission を明確にして、関係者に理解させた。その mission とは「日本の介護を変える」です。

1. その mission とは具体手段に何か
2. 現在の介護の問題を具体的に列挙する。例えば危険なため外出は避ける。入浴は機械設備を導入して実施する。「してあげる」式の介護方式等
3. なぜそのようになったか。その社会的背景は何か。現状を調べる。例えば、介護される人と介護者のニーズは一致しているか。典型的な事例は「～してあげる」ケア
4. [image 変化後の介護の姿を明確にする] 理由 介護社会の仲間が理解できて協力が得られる。また介護福祉士の社会的地位が向上し、憧れのある職業になる。例えば「介護福祉士」はカッコいい。そんな仕事ができる僕らは幸せだ。
5. 「憧れのある職業」の条件とは何か。重要なことは第三者が聞いてそのイメージがわかるようにする。問題点を明確にしないと対策を立てることは困難です。
6. 問題解決後の姿が具体的でだれでもわかるようにする。 スタバーの事例
7. 介護問題を解決するには国民的な協力が必要です。そのための解決策は国民的な「image」の共有が必要です。講義ではイメージが沸くようにやさしい言葉と、事例がふんだんに使われています。
8. 最後の言葉 「人は鏡の関係。自分が笑えば、相手も笑うよ」

◆今までにない感動的な内容でした。残念なのは今回の講義を拝聴した人でなければ介護の改革の進め方がわからないことです。多くの人に理解してほしい内容でした。

◆ゆきさんへ この度、はに～さんの呼びかけで貴大学院へ入学させていただき、今まで経験したこのない貴重な講義を若い生徒さんが方と共に拝聴させて頂き大変感謝しています。どの講義も大変有意義で、80歳の後期高齢者ですが、皆様の足を引っ張らないように2年間を有意義にすごしたと思っています。私は多くの仲間から80歳で何故大学院で勉強するのと尋ねられています。このことは京都でも同じです。社会人にも勉学の機会を与えるこの大学院のシステムはすばらしいと思います。